

防災緑地の「植栽プラン(案)」が提示されました

平成26年8月10日に行われた第9回「久之浜防災緑地づくり会議」では、まず県のいわき建設事務所より、これまでの成果を踏まえてまとめた「植栽プラン」の提案がありました。どこにどのような木を植えるのか、どのような活用が考えられるのか、育成管理の手間はどのくらいかかるのかが丁寧に説明されました。その後、廣瀬先生から草地の管理などに係るお話があり、それらに対して参加者の皆さんからは「無理のない緑地管理のやり方を探りたい」「久之浜らしさや子どもの豊かな体験を大事にしたい」などの意見が出されました。(話し合いの内容は8ページをご参照下さい)

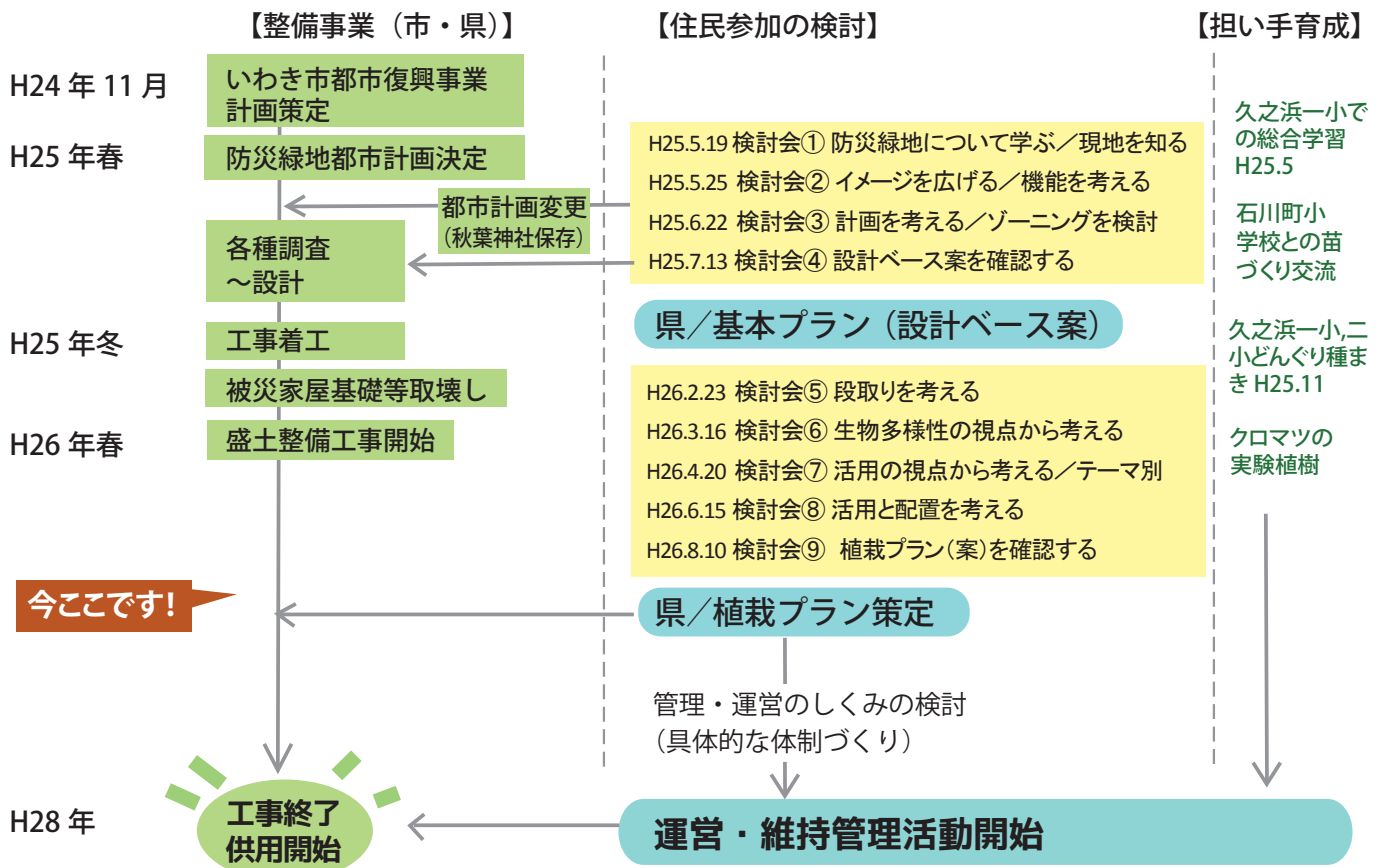


最後に角館先生から照明の実験についての説明がありました。

久之浜防災緑地づくり・全体スケジュール

これまで平成25年の5月から7月にかけては、基本計画（整備の方向や内容構成）を検討しました。その後、平成26年2月からは、具体的なデザインや樹木の種類の検討に向けて、生物多様性および植樹事例等の見学会や学習、4つのテーマ（自然・環境学習、イベント・憩い、子ども・遊び、緑地の運営）での検討などを重ねてきました。

今後は、「植栽プラン(案)」をもとに、具体的な緑地の維持管理・活用に向けて話し合うこととなります。



久之浜防災緑地 植栽プラン(案)の提案

久之浜防災緑地における植栽プラン(案)

～緑地づくりの目標とそれを実現するための植栽ゾーン

久之浜防災緑地の植栽計画をつくるにあたっては、ワークショップでの話し合いを含めた以下の3つの内容を整理して、「森づくりのコンセプト案」や「求められる機能」をまとめ、それぞれを満たす配置（ゾーニング）や樹種の案を設定しました。

- 防災緑地に関連する福島県の計画・ガイドライン等
(ふくしま生物多様性推進計画、福島県防災緑地計画ガイドライン)
- 久之浜に関連する復興まちづくり計画(久之浜・大久地区復興ランドデザイン)
- ワークショップで、住民の皆さんやアドバイザーからいただいたご意見

【植栽プランの全体コンセプト案】

これまでとこれからの久之浜をつくる、持続可能な防災緑地 ～生物多様性に配慮した森づくり～

【緑地づくりの目的(コンセプト)とそれを実現するための植栽ゾーン】

*それぞれのゾーンとも複数の目標にかかわってきますが、ここでは主なゾーンをあげました。

目的① 津波から久之浜を守る機能をつくる：耐潮性の高い樹種による津波対策

クロマツ林ゾーン 津波の減衰、漂流物捕捉機能を受け持つ植栽帯

目的② 久之浜の人による、久之浜の人のための森をつくる：人が集い・憩える場、協働による維持管理・新たな組織

景観高木林ゾーン 地域の憩い・景観シンボルとなる植栽帯

景観低木林ゾーン 後背地の住宅景観・道路景観の向上を図るための植栽帯

草地ゾーン 緑地内の遊歩道沿道、地域の憩い・集い・活動の拠点周辺等

裸地(土)ゾーン 地域の集いの広場

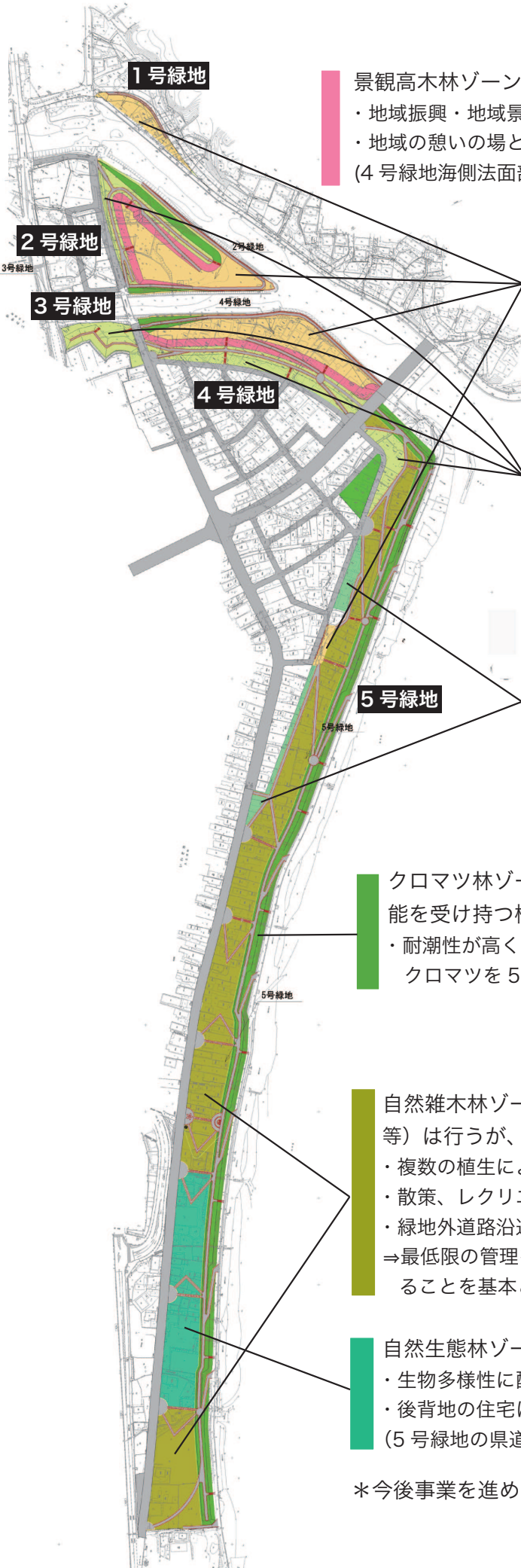
目的③ 久之浜の生態系による、久之浜の生態系のための森をつくる：地域由来の樹種の活用、自然にゆだねた緑地、生態系を壊さない空間

自然雑木林ゾーン 後背地の住宅地に配慮し、最低限の管理(下草刈り等)は行うが、基本的には自然に生長してくる樹木を尊重する植栽帯

自然生態林ゾーン 自然に生長してくる樹木等を尊重する植栽帯

目的④ 久之浜らしい景観(風景)をつくる：地域にとって愛着の湧く、誇れるもの

*これは久之浜防災緑地全体で、考えていく目標です。



1号緑地
 景観高木林ゾーン／地域の憩い・景観シンボルとなる植栽帯
 ・地域振興・地域景観に資する樹種を活用する。
 ・地域の憩いの場となる空間に配置する。
 (4号緑地海側法面部分)



2号緑地
 裸地（土）ゾーン／地域の集いの広場
 ・地域振興につながるような多目的広場をつくる。
 (1号緑地全体、2号緑地広場部分、4号緑地広場部分、秋葉神社周辺)

3号緑地
 草地ゾーン／緑地内の遊歩道沿道、地域の憩い・集い・活動の拠点周辺等
 ・地域活動の拠点、景観に資する場所に配置する。
 ・自然の姿を保全活用する。
 (2号緑地天端、3号緑地全体、4号緑地陸側法面、5号緑地の大久川河口付近)

4号緑地
 景観低木林ゾーン／後背地の住宅景観・道路景観の向上を図るための植栽帯
 ・地域振興・地域景観に資する樹種を活用する。
 ・道路の建築限界、沿道への圧迫感抑制に配慮、居住地からの近接性に配慮する。
 (5号緑地の住宅地に接した道路沿道配置)

5号緑地
 クロマツ林ゾーン／津波の減衰、漂流物捕捉機能を受け持つ植栽帯
 ・耐潮性が高く、早期の生長が期待できる抵抗性クロマツを5号緑地の海側に配置する。



自然雑木林ゾーン／後背地の住宅地に配慮し、最低限の管理（下草刈り等）は行うが、基本的には自然に生長してくる樹木を尊重する植栽帯
 ・複数の植生による生物多様性の創出。地域性樹種のほ場空間を確保する。
 ・散策、レクリエーション、地域活動等に活用する。
 ・緑地外道路沿道は道路の建築限界、沿道への圧迫感抑制に配慮する。
 ⇒最低限の管理を行う混交林を5号緑地のクロマツゾーンより陸側に配置することを基本とする。ただし道路沿道から5m程度は、高木を配置しない。

自然生態林ゾーン／自然に生長してくる樹木等を尊重する植栽帯
 ・生物多様性に配慮し、あえて何もせず、自然の遷移に任せる。
 ・後背地の住宅に影響の少ない位置に配置する。
 (5号緑地の県道245号付近に配置)

*今後事業を進める中で、変更となる部分がありますのでご了承願います。

各植栽ゾーンの将来像

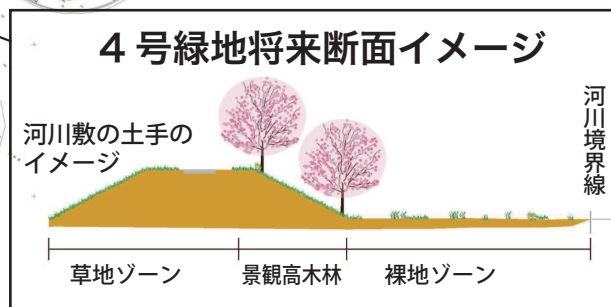
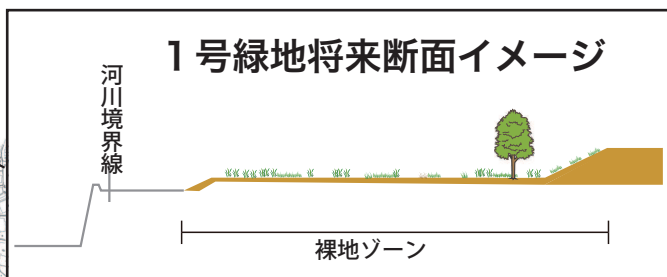
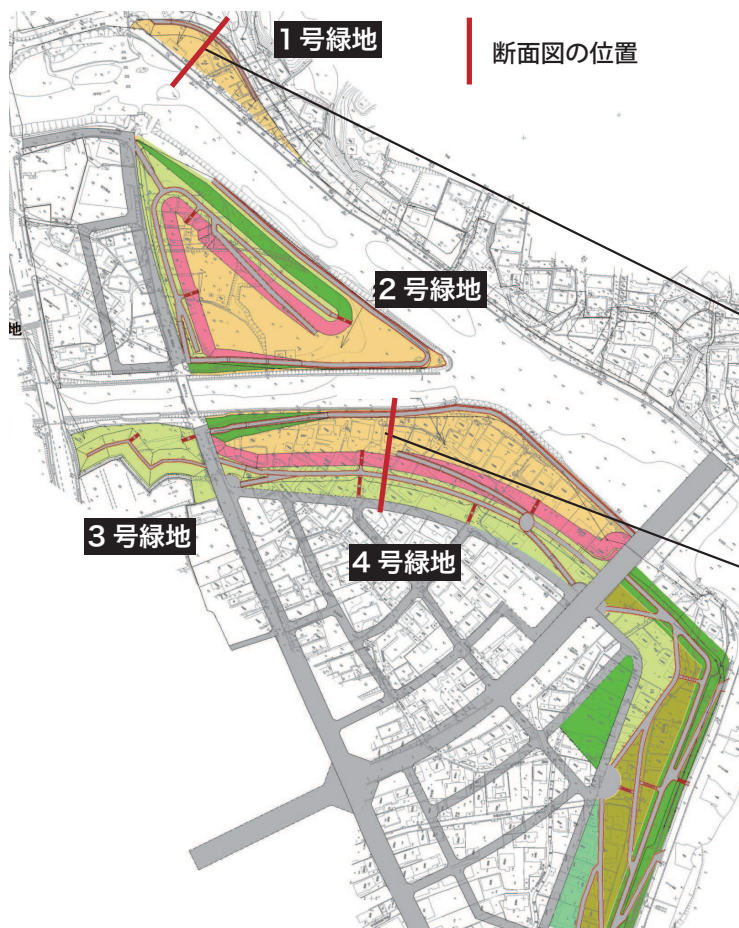
それぞれの図は、各ゾーンの将来像です。

下の表には、どのような森を目指すのか、具体的に考えられる樹種、維持していくために必要となる維持管理作業や考えられる活用例などもまとめました。樹種については、専門家の先生方にも相談しながら設定しました。

【ゾーン別の樹種候補案選定の考え方】

基本的な考え方：久之浜の生態系による、久之浜の生態系のための森をつくる

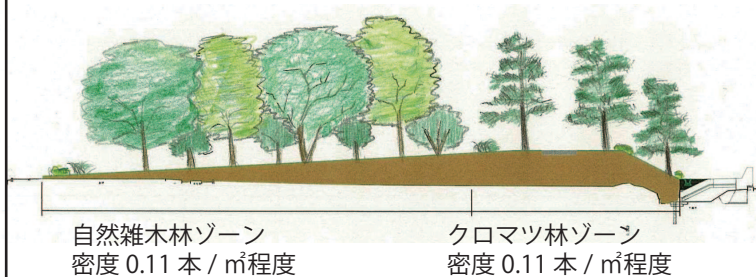
- 久之浜の中でも海に近い地域に生息する樹種を選択。
- 絶滅危惧種・希少種などを人為的に植えない。



各植栽ゾーンの植生、維持管理作業、活用・活動例

	裸地ゾーン	景観高木林ゾーン	草地ゾーン	景観低木林ゾーン
目標植生	(植栽しない)	サクラ等	人が立ち入ることを想定 休息の場としても使用可能な植生	景観に配慮した低木 (花壇含む)
樹種の例		カワツザクラ、オオシマザクラ	クローバー、アキグミ等 (広場に使う一般的な植栽や自然に生えてくるものが想定されるもの)	地域性の樹種で、鑑賞して楽しめるものなどを適宜選択
維持管理	除草	下草刈り、落ち葉掻き、 除伐 (外来種)・剪定	除草	下草刈り、落ち葉掻き、 除伐 (外来種)、剪定
活用・活動例		・お花見 ・桜ジャム、桜餅、塩漬け など	・子どもの遊び など	・有用植物の栽培 など (生薬：スミレ・ユキノシタ・ ヨモギ・ドクダミ・ヤマモモ)

5号緑地将来断面イメージ

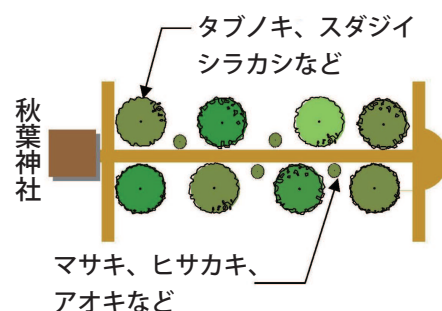


自然雑木林ゾーン
密度 0.11 本 / m²程度

クロマツ林ゾーン
密度 0.11 本 / m²程度

【秋葉神社周辺】

・鎮守の森を連想させるような樹木を想定



マサキ、ヒサカキ、
アオキなど

5号緑地

【景観低木林】

・沿道への避難経路確保が必要

【自然雑木林（道路沿道）】

・沿道への避難経路確保が必要。
・住宅からの圧迫感の軽減などのため、道路側から5m程度は高木を植栽しない。

【愛宕神社】

・愛宕神社からタブ、スタジイなどの種子の自然散布が起これと考えられる。

【思い出広場周辺】

・第一幼稚園を思い出す場

愛宕神社

【地域性苗木のほ場】
・循環可能な森＝久之浜らしさの森

	クロマツ林ゾーン	自然雑木林ゾーン	自然生態林ゾーン
目標植生	クロマツ林	混交林（最低限の維持管理） 人の立ち入りも想定	自然混交林
樹種の例	クロマツ	高木 スタジイ、ヤシャブシ、タブノキ、 コナラ、ヤマザクラ など 低木 マサキ、アオキ、ヒサカキ、 アキグミ など	自然雑木林ゾーンと同様（植栽しない）
維持管理	下草刈り、補植、落ち葉掻き、除伐・間伐	下草刈り、除伐（外来種）・間伐	飛砂対策（下草等が繁茂するまで）、除伐（外来種）
活用・活動例	松露（ショウロ）を食べる会 ・松葉アロマ など	・間伐材木彫、まきづくり ・モニタリング調査 ・微速度撮影写真 など	・風紋写真会 ・砂地の昆虫観察 ・モニタリング調査 など

段階的な森づくりのすすめ 廣瀬先生、黒沢先生、根本先生、木田先生

現在のゾーニング案で、防災緑地の中で最も広い面積を占めるのがクロマツゾーンの陸側に広がる自然雑木林ゾーンです。

自然雑木林ゾーンは、造園的に樹木を植えてつくるより、地元取り組みとして、自然の遷移に合わせて段階的に地域性の樹種を植えたり、また、買ってきた苗を植えるのではなく、地域で種取を行い、育てたものを少しずつ植える取組を持つことで、地域の森として育てていってはどうかのご提案を頂きました。

また、ゾーニングとしては、1号緑地及び2・4号緑地の広場部分について、将来的には草地として、地域性の植物からなる大らかな空間としてはどうかのご意見を頂きました。

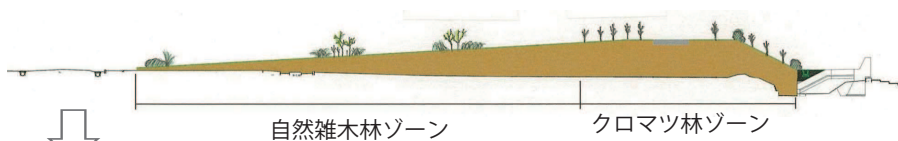


■段階的な森づくりが良いと考えられる理由

- ・久之浜にある木から種取り・育苗などの活動を合わせて行うことができ、地元との関わりが深い森をつくっていくことができる（その場合は緑地内に圃場を設ける）
- ・地元が関わって長い時間をかけて森を育てることで愛される森ができる
- ・周囲から飛んでくる種や地域性樹種によって形成していくため、久之浜の生態系を乱さない森づくりを行うことができる

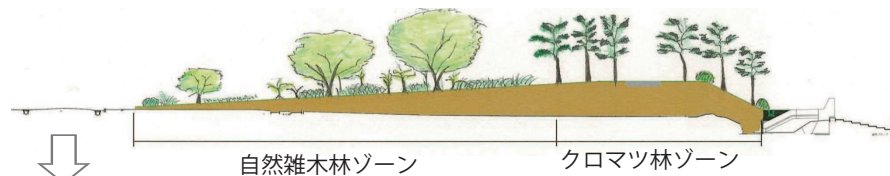
森の形成イメージ

■植栽時



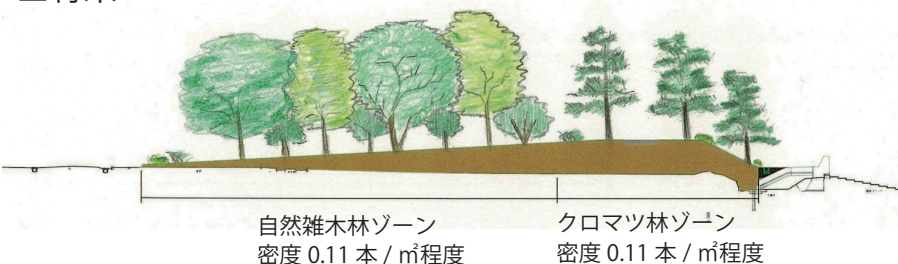
クロマツ林ゾーンにクロマツ・風避けの低木を植え、住宅地側斜面には、先駆性の樹種であるヤシャブシなどの陽樹で手に入るものを配する。

■10年前後



クロマツが約5mほどとなり、先駆植物による低高木林が形成されてくる。

■将来



外から自然に種子が飛んできたり、状況に応じて地域で育成する苗木を移植する。

先駆性植物が衰退し、スダジイ・コナラ・ヤマザクラなどが優占な森になる。

草地管理、樹木配置と空間の趣の関係

廣瀬先生

会議の中で廣瀬先生から、多くのスライド写真をもとに草地管理、樹木配置の考え方についてアドバイスをいただきました。以下はそのお話の抜粋です。

【草地の管理について】

- ・どの程度の管理水準にするかを考えるための例をあげてみます。
- ・低く芝生を刈りそろえてきちんとした芝生の公園は、管理になかなか手が掛かります。
- ・いったんは芝を植えても、自然に生えたオオバコなどを適切に刈りそろえていくと、おおらかな雰囲気の間場になります。右の①②は、そのように管理されている草地です。
- ・スポーツの間も、手づくりのホームなどで済ませることができます。
- ・水路の周囲の草を刈り残すと自然な感じになります。(①の写真)
- ・刈り込み前の草が伸びた時もそれなりに楽しい風景。伸びた草、刈ったあとの手入れした感じ。どちらもよいものです。動いている人のかかわりを感じる風景です。(②の写真)

【樹木の植え方、管理について】

- ・植樹の方法も、あまりきちんと統一するより、少しばらつきがあるほうが柔らかな風景になります。(③の写真)
- ・この地域に本来ある植物を植えることで、しっかりと育つ可能性が高まり、防災性につながります。
- ・緑地の中に、ちょっとした地形をつくると変化のある風景が生まれます。
- ・地域の人が管理することで、趣のある風景が生まれます。
- ・どんな緑地にしたいかを考えて、緑地を管理する上での「作法」が共有できるとよいですね。その中で空間の趣を生み出すための作法、指針があるとよいです。よそから見に来る人が、作法書を見たときにみなさんの考え方がわかるような、中身の濃いパンフレットのようなものがつくられるとよいですね。



パークゴルフ場を抜ける水路の脇は、草が刈り残されておおらかな趣が・・・(天童市 乱川右岸広場)



刈り込み前の草が伸びた状態。その時なりの遊び方が工夫され・・・(東京都 亀戸中央公園)



地域活動の歴史の上に遺伝的多様性保全を選んだ、久之浜の地域性に合う空間の趣を・・・(天童市 乱川右岸広場)

第9回「久之浜防災緑地づくり会議」 話し合いの内容（抜粋）



【久之浜らしさ】

- 久之浜らしさといえば昔のイメージを持っている。しかし、地域も様変わりし、川も汚れ、海水浴ができる浜辺も失われてしまい、久之浜らしさがつかめない。
- 防災緑地だけでなく、ランドデザインでの共通認識として、久之浜らしさを掘り出していくことが大事では。
- いかに自分のまちを自慢できるかが重要。(角館先生)
- 市内の他にはない美しい自然と豊かな海、そして、住む人にやさしいふるさとであるのが久之浜らしさだと思う。

【防災緑地について】

- 防災緑地に植えるマツについて、松食い虫は大丈夫か？
- 抵抗性のクロマツを植える予定であり、比較的強いものと考えている。(県)
- 上原種苗のクロマツは久之浜周辺原産なのか？
- 基本的にそうだが、全てではなく、いわき市で採取した種から育てたもの。(県)
- 江戸時代以降、マツは人の手で植えられている。地元のものに過度にこだわると時間がかかりすぎるため、柔軟に進められると良いと思う。(廣瀬先生)
- 大人の世代は浜辺で遊んできた。子どもたちにも砂遊びを伝えたいので、そのような砂場をつくってはどうか。
- 今後の検討の中で工夫していきたい。(県)
- 目的の一つで、町民の散歩・ふれあいイベントは意義が大きい。そのようなことに使いやすく整備してほしい。
- 計画づくりに時間がかかりすぎるのではないか。いつになったら具体化するのか。
- 防災緑地や区画整理には大量の土が必要なため、一度に土を確保できません。今年度は、秋葉神社から北側の盛り土を実施する予定です。(県)

【植栽の維持管理】

- 廣瀬先生資料で紹介があった、大らかな草地や並木がよかった。維持管理も地域の方々がやりやすい仕方が良い。
- 道路と緑地の境界や、住宅と緑地の境界のしつらえはどうしたらいいか。
- 防災緑地と住宅地の設計が相容れないものになってしまうともったいない。道路への影の落とし方への配慮などがあると良い。(廣瀬先生)
- 苗木を植える場合、森になるにはどの程度の期間が必要か。
- 苗木を植える場合、30年程度はかかる。植えた後、まずはよく草を刈る必要がある。その後は、地域の年中行事などとしながら、時期を選んで草刈りなどを行っていく必要があり、通路だけでもきれいにしておくなど、みなさんが納得できる決まりをつくってけると良い。(木田先生)

【植栽について】

- 2つの小学校に苗作りをお願いしており、今後の維持管理を一緒に進めていきたい。
- タブノキ、スタジイ、シラカシ等を育てたいと思っている。
- 芝の種類はどのようなものが適しているのか、調べてみたい。

【その他のご意見】

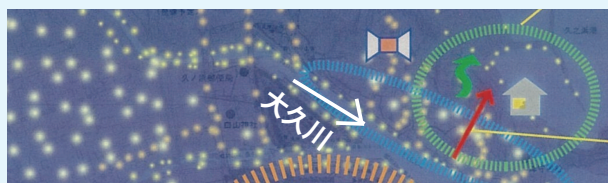
- 川魚が住める川にしたい。(大久川にはウナギの稚魚がたくさんいる)
- 上流にコナラなど植えれば川がきれいになる。
- 河口付近は砂利がたまり、空き缶などのゴミが多い。
- 防潮堤が高くなると、大雨の時に水が街の中に溜まってしまうのではないか。
- 河川堤防も高くする他、区画整理事業では想定される降水量も計算して排水計画を立てる。それにもとづいて新しくポンプ場ができるため、今よりも安全になる。(県)

【先生方からのご意見】

里山のような自然を目指し、自然植生となるよう、植物を植えるのは慎重に行うべきだが、利用する際は自由に出入りできて遊べるような場になれば良い。(根本先生)

夜間照明実験のお知らせ

久之浜の夜間の風景を良くしていくため、夜間照明の実験実施を検討しています。実験を行って、久之浜の夜間照明に求められる防犯性・視認性などの機能を再確認したいと考えています。詳しい内容は別途お知らせしますので、ご協力をお願いします。(角館先生)



久之浜光環境整備イメージ（部分）

【お問い合わせ先】

福島県いわき建設事務所

☎ 0246-35-6075(石倉、菅野)